

## 町民研修会「活きる計画づくり ～斜里の夢と未来をかたちに～」開催記録

1. 日 時 平成 25 年 2 月 7 日（木） 18：30～20：00
2. 場 所 ゆめホール知床 公民館ホール
3. 演 題 「活きる計画づくり ～斜里の夢と未来をかたちに～」
4. 講 師 北海道大学公共政策大学院 副院長/教授 山崎 幹根氏
5. 聴講者 計 65 名
6. 講演要旨
  - 総合計画の作成は、今の斜里町が置かれている現状や課題、社会経済情勢などを踏まえた上で、町民参加のもと、まちの将来を展望した施策や夢の優先順位付けを行う絶好の機会となるものである。
  - 総合計画は、作成されても多くのまちで十分に活用されていないのが実態ではあるが、「質の高い」自治やまちづくりを進めるための重要な「手段」となりうることは確かである。作るのではなく、活用することこそが目的である。
  - 活用していくためには、目標値や指標を導入した目標管理型の計画であることが望ましく、計画の適正な進行管理や評価をしておくことが特に重要である。
7. 講演詳細 下記のとおり

---

### <研修会詳細>

#### 1. 開会

- ・ 事務局（渡辺企画総務課長）の司会進行で定刻 18:30 に開会した。

#### 2. 三浦勝利委員長挨拶

- ・ 今年度策定した斜里町自治基本条例の精神に基づき、町民主体、協働で作成する初めての「総合計画」である。従来の審議会方式ではなく策定委員会方式で策定することとなり、多くの町民委員が参加している。
- ・ 町民委員にとっては、総合計画とはどんなものかがイメージが湧きにくいものであるので、基本条例策定にもアドバイザーとしてご協力を頂いた山崎先生をお招きし、総合計画とはどんなものか、作成するうえでどんなことが重要かなどを、他の自治体の例などを交えてご講演をいただきたい。

#### 3. 講演「活きる計画づくり ～斜里の夢と未来をかたちに～」(講師：山崎 幹根 氏)

- ・ 講演の前半は、総合計画とはどういうものかについて、レジュメを使用しての口頭説明が中心となり、後半は、プロジェクターを使用しての他自治体（江別市・弟子屈町・芽

室町)の事例紹介と、その事例の意義が講義された。

<前半>

## 1. 総合計画づくりの重要性

- ①まちの現状と課題を見直す好機―「まちの棚卸し」
  - ・町の現状を見つめ直すことで、今後の課題が見えてくる。振り返る際には何らかの「ものさし」が必要となるが、昔と今を比べること、過去を振り返ることが一般的な手法である。総合計画策定時は、現在までの町を振り返る絶好の機会である。
- ②自分たちのまちを取り巻く社会経済的、政治・行政環境の変化（現状分析）
  - ・単に自分たちのまちを振り返るだけではなく、社会経済的な情勢変化なども分析する必要がある。
  - ・行政計画であるから、町の歳入、交付金・税収等の財政環境の変化への理解も重要である。
- ③われわれのまちの将来を展望し、「順序付け」を
  - ・10年後の斜里町の望ましい姿を出し合い、その後、将来展望や実現性を踏まえた順序付けを行うことが大切。何でもかんでもできることはありえないのであって、最も優先して取り組むべきこと、財政に余裕があったらやることなど、大まかでもよいので、優先順位付けをすることが重要である。そして、順序付けの際には、私やあなたではなく、「皆にとって」が必要なのか否かという視点が不可欠である。
- ④総合計画の現状
  - ・多くの自治体で、総合計画は策定されただけで、十分に活用していないのも現状にもある。

## 2. 目標管理型の総合計画の重要性

- ①住民と行政の情報共有として
  - ・総合計画によって、具体的な目標を住民と行政とが共有することができるようになる。
- ②住民と行政の協働として
  - ・従来、公共サービスとして提供されていたものが、民間力の活用や協働化させる機会にもなる。
- ③行政経営のツールとして
  - ・総合計画は、施策の進行管理の指標となるものである。内部や外部の行政チェックの「ものさし」になり得るのが総合計画である。また、事業の体系や目的などを明確にするためにも使えるものであり、いわば施策に住所を与えるようなものでもある。みんなで作る計画なのだから、行政のルール作りともすべきである。

## 3. 斜里町（政）を取り巻く現状と今後の動向は？

- ①社会経済的な動向→人口構成、土地利用政策、教育・福祉・住宅政策への影響は？
  - ・人口の想定が最も大切である。人口が一番初めに決まるものであり、人口や年齢構造によって政策が変わりうるものである。
- ②行財政運営の現状は？予断を許さない今後の地方財政の動向
  - ・財源としての地方交付税がやはり重要である。しかし、情勢的には、今後大幅に伸びることは考えにくいのは言うまでもない。
- ③住民アンケートによって見えるものは？
  - ・計画策定にあたって、多くの自治体がアンケートを行うが、町民の現在の町に対する

評価・思いが見てくるものにはなる。

#### 4. 自治体総合計画策定をめぐる全国の動向

※省略（日本生産性本部「地方自治体における総合計画の実態に関するアンケート調査」報告書の紹介）

#### 5. 総合計画の策定に向けて—まずは前期計画の実績評価

- ・計画策定にあたっては、様々な視点からのチェックが重要である。住民の視点、民間の視点、協働の担い手としての視点などである。様々な視点からチェックをすることで、違った見え方が出来る。

#### 6. 計画目標をどのように設定するべきか。

- ・施策目標を完璧に数値化することは不可能であるとしても、何らかの数値目標・指標を設定することはやはり望ましい。目標設定は最も大変な作業であるが、簡単に諦めず、議論を深めるべきである。
- ・前計画の評価をする際に、何故できなかったのか、何故できたのかを議論することも大切で、課題や問題点の発見につながっていく。
- ・目標設定は全て右肩上がりになるわけではなく、現状維持や縮小させていくという目標もあり得る。

#### 7. 総合計画の活用に向けて

- ・総合計画を活かすためには、進行管理を行うことが重要である。住民も参画する委員会などを立ち上げることが望ましい。自治基本条例を定めたからやりやすい環境にある。
- ・議員の皆さんにも、総合計画のチェックをお願いしたい。

<後半>

##### ○ 江別市

- ・成果指標を取り入れている。数値化できないものは、矢印による簡素化している。
- ・計画・実行・評価のサイクルが確立されている。

##### ○ 弟子屈町

- ・協働方針を明記しているのが特徴的である。
- ・やや総花的な計画ではあるが、重点プロジェクトを段階的に位置付けることで施策の差別化をしている。

##### ○ 芽室町

- ・芽室町は総合計画を十分活用しているといえる数少ない先進的な自治体である。
- ・人口も増加を続けている珍しい自治体だが、今後の減少予想の中で、減少幅を緩やかにしようと目標設定をしている。
- ・施策の重点項目というものが掲げられているが、これは、町長のマニフェストとの関係で位置付けられたものである。
- ・進行管理の面では、進行状況を数値化し、わかりやすく公表をされている。行政の内

部評価と住民の外部評価を公表している点も特徴的である。

- ・ 行政に対する意見も公表している。

- 3つの自治体に共通なのは、目標を指標化していることである。指標化することが、昨今の潮流である。

#### 4. 質疑

- ・ 特になし

#### 5. 閉会

- ・ 20:00をもって閉会した。